

## 令和5年度（2023年度）合格体験記 インテリア科（進学）

京都文教大学 総合社会学部 実践社会学科

インテリア科 男子 （令和5年度）

私は、高校一年生の時木曾町の地域おこし協力隊の方とお話しする機会があり、そこで木曾町の魅力をより深く知るとともに、人口減少や空き家の増加など課題に対しても考えるようになりました。また、「里らぼ」という木曾町の新たな魅力を生み出す実践型プログラムに参加し、「自分も木曾町を活性化させる一員になりたい」と思うようになりました。

しかし、何をしたらいいかわからず悩んでいると塩尻市にある「スナバ」が行っている「エヌイチ道場」という高校生の企業をサポートするプログラムを知り、興味を持ち、そこで木曾町の魅力の一つである“ぬくもり”を知ってもらおうイベントの企画・運営をしました。

大学でもそのようなことが学べる場所にしたいと考え、インターネットやパンフレットなどで探していたのですが、あまり地域活性化について学べる大学は少なく、やっと見つけたのが「京都文教大学」です。

京都文教大学 総合社会学部では、総合社会学科という社会を幅広く学べる5つのコースがあり、その中で「観光・地域デザインコース」が気に入り、オープンキャンパスに行きました。そこで予定通りに総合社会学部の学科説明へ行こうとしたのですが、令和6年度に開設される、「実践社会学科」に興味を惹かれそちらの学科説明へ行きました。

実践社会学科は「現場主義」を徹底した学びで、実際に現場へ行き企業や行政と連携した課題解決型プロジェクトにチャレンジする「プロジェクト演習」、自分の武器となるスキルを磨く「ラボスキル演習」、プロジェクトの進捗と自分自身の取り組みを定期的に振り返り、社会実践力を計画的に伸ばす「キャリアゼミ」、その三つを継続して実施することで実践力を成長させる学科になっています。

試験はオンラインでもできますが、私は実際に大学へ向かい行いました。形式は書類審査と個人面接、任意で資格加点の三つです。会場に着くと待合室で待機して、自分の番になると誘導係員に誘導されて面接室に入りました。私は、受験生の最後のほうだったので、1時間半ほど待ちました。

面接の内容は、まず志望理由、私の住む地域の魅力、地元に戻った場合どんな生活をしていくのか、自分がやったイベントで何を得られたか、などでした。

基本的に実践社会学科では、自主的に動き人と関わって学んでいくから、先生に言われて動くだけでは、向いていないといわれました。ただただらだと4年間過ごすのではなく、その中で自分の考えを持って活動し、学んで欲しいとも言われました。

最後に、この大学は企業や行政などつながりが深く、就職にも強いらしいので、入学後この大学でいろいろなことを体験して学んでいきたいです。

## 大同大学 情報学部 総合情報学科

インテリア科 男子 (令和5年度)

私は、中学の頃、勉強が嫌いで進学しようとは考えていませんでした。しかし、高校入学後に徐々に学習成果が上がり始め、将来の夢も決まっていなかったものの、大学進学を試みようと思い始めました。進学といっても具体的に学校が決まっていなかったため、大学選びから始めました。

大学選びをする際、「自分は今何をしたいのだろうか」と考える中、中学校、高校で行った就業体験を思い出し、接客業について学びたいと考え、大学を調べました。そこで、大同大学がヒットし、オープンキャンパスに参加しました。大同大学は、接客業をするには必要不可欠であるコミュニケーション能力、ビジネスに関する基礎知識が幅広く学べるため、自分の将来に必要な能力を培うことができると考えたからです。そして、他の大学と比較した時、パソコンについても強くなれる点も魅力に感じました。インテリア科でもパワーポイントやエクセルなどを習うことができますが、大学でより深い使い方をマスターすることで社会に出たとき、役に立つと考えました。このような理由からこの大同大学に進学しようと思いました。

目標とした大学から指定校推薦が来ていたための私は、普段の学校生活に気を付けて生活していました。主に授業態度をしっかりとしたり、テストで高得点を取りその点数をキープしたりと細かな努力を続けました。嬉しいことに大同大学から指定校推薦が来ていたため、次に指定校推薦の内容である小論文と面接の練習に取り掛かりました。私は短時間で言葉を考えるということが苦手で、小論文対策も面接練習もとても苦労しました。小論文は、何回も違うお題について考え、書くことで対策しました。面接は、なるべく多くの先生に面接練習をお願いし、その度、アドバイスをもらいました。そして、そのアドバイスをもとに話す言葉を改善していきました。その生活を三週間続けることで、少しずつ面接内容が充実していくことが分かりました。

試験日は、当日出発すると時間に間に合わないで近くのビジネスホテルに宿泊まりました。一人で名古屋に行くことは初めての経験だったので、新鮮な感覚でした。そして、当日、緊張しながら試験会場に行き、小論文から試験が開始されました。過去問での学習がとても難しかったので、ビクビクしながら問題用紙を開きました。今回は、自分がよく考えていたコミュニケーションについての話題だったため、自分的に納得のいく文章が書けたと思います。次に、面接試験でした。自分の番が来るまでに40分ほど待つことになりましたが、その間は、過去にももらったアドバイスをもとに描いたセリフだったり、Xを見て緊張を和らげたり、リラックスしていました。しかし、いざ自分の番になるととても緊張してしまいました。「いままで練習してきたような質問にしないです」と言われ、絶望していました。しかし、始まってみると考えることに夢中になり、緊張も解け、自然体の状態で受け答えをすることができました。その結果、合格をもらうことができました。

大学入学後は、青峰に来年も指定校が来るように問題を起こさず、ほどよくまじめに学校生活を送り、楽しんでいきたいと考えています。

## 四日市看護医療大学 臨床検査学科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は、中学2年生のときから医療従事者になりたいと思っていました。理由としては、医療職は安定していてなくなることがない職業で、加えて給料もいいです。そして人の命を救う職のため、とてもやりがいのある仕事だと感じ医療従事者を目指そうと思いました。そして、私は集中力を要する細かい作業が得意なため、これを活かすことのできる医療職を探していたところ、臨床検査技師・細胞検査士を見つけました。臨床検査技師は、血液検査・心電図・超音波など、ほぼ全ての検査をする仕事です。細胞検査士は、臨床検査技師をグレードアップした感じで、がん細胞や形が正常でない細胞を見つけ出す仕事です。因みに、臨床検査技師の国家資格を取らないと、細胞検査士にはなることができません。

私がこの学校を選んだ理由は、細胞検査士の養成校であるということです。また、この学校の先生方はとても学生思いの方が多く、国家試験の対策も手厚くサポートしていただけることに魅力を感じました。オープンキャンパスに行った際、とても明るい雰囲気先生と学生の距離が近く、相談などもしやすそうだなと思いました。そして、一人一人に寄り添い、分からないところは理解するまで丁寧に教えてくれました。進学後は、まず臨床検査技師の国家資格を取り、目標である細胞検査士の資格を取った後、病院で働きたいと考えています。

試験の準備に関しては、事前に提出する志望理由書・活動経歴書・レポート課題を作成し、面接+口頭試問の練習をしました。レポート課題は配点が高いので頑張らしましょう。また、面接・口頭試問に関しては、進学相談会でかなり有利になれる情報を得ることができるので絶対行きましょう。口頭試問は専門科の人からすると、レベルが高いのでしっかり予習復習することをおすすめします。試験は面接官二人、受験生一人の個人面接で面接官の方が笑顔で「緊張せず、リラックスしてね」と言ってくれるので、落ち着いてゆっくりはつきりを意識して頑張ってください。

## 大阪学院大学 経営学部 ホスピタリティ学科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は親戚の結婚式に参列した際、会場や、新郎新婦など、式に関わる全ての物が華やかに彩られ、主役の新郎新婦に合わせられていることで、周りの私たちも幸せになることができました。そんな誰もが幸せになれる式を作れるようなスタッフ、ウェディングプランナーにとっても憧れています。そこで、ウェディングプランナーとして働いていくために専門的な知識を学ぶため、大阪学院大学 経営学部 ホスピタリティ学科を目指すことにしました。

試験は、総合型選抜オープンキャンパス参加型という試験方法で受けました。まずオープンキャンパスに参加して、そこで説明してもらったことや、教えてもらったことをまとめ、自分が入学してどのようなことを学んでいきたいか、等を一次試験の答案用紙に書き、大学のほうへ送りました。一次試験が合格したら、二次試験で行う内容、課題が大学のほうから

送られてきました。二次試験の内容はA「高校で学んできたことから、大学で何を学んでいくか」B「総合的な学習を取り組んできたことを発表し、大学にどう活かされていくか」という二つのお題から一つ選び、プレゼンテーションをします。プレゼンテーションの方法は、音のなるものや、電子機器等の使用は禁止されており、紙芝居式、資料配布型、掲示型などの方法となります。私はAの内容を紙芝居を掲示していくような形でプレゼンテーションしていきました。プレゼンテーションした後は面接がありまさいた。プレゼンテーションの内容を含めての面接でした。

緊張しましたが、答えることはできたのでよかったです。資格や、資格の用途を聞かれるので、その点をまとめておく必要があると思います。あとは落ち着いて受ければ大丈夫だと思います。

## 杏林大学 外国語学部 観光交流文化学科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は、観光業に興味があり将来はホテルに関わる仕事がしたいと思い進学を決めました。観光業に携わるためには、外国人観光客とのコミュニケーションは必須だと考え実践的な英語が学べることを大学選定の際重要な観点としました。

私がこの大学を選んだ理由は、観光学が外国語学部で学べ、英語やコミュニケーションに力を入れている学校だったからです。留学制度も充実しており言語の習得や異文化に対する理解を深めることができると考えました。また観光・ホスピタリティーの専門科目があり、そこで、おもてなしの心を学びたいと考えました。そして、キャンパス内に異文化交流できる施設が多くあることにも魅力を感じました。観光の分野で活躍できる人材になるため、杏林大学の外国語学部観光文化学科で学びたいと考えました。

試験は総合型選抜を受けました。総合型選抜は事前書類の提出と課題に対してのプレゼンテーション、面接がありました。試験の準備に関しては、夏休み中に志望理由書を制作し夏休み後にプレゼンテーション資料の制作を行いました。資料の制作は早く終わらせ、プレゼン、面接の練習に時間をかけたほうが良いと思います。面接内容は、プレゼン内容に対しての質問、事前に送った志望理由書、資格についての質問をされるので志望理由書に書いた内容や自分が取得した資格について覚えておいたほうが良いです。観光の分野なので明るく元気に笑顔で面接することが大切だと思います。

## 大阪芸術大学 芸術学科 デザインコース専攻

インテリア科 男子 (令和5年度)

私は大阪芸術大学の芸術学科デザインコース専攻に進学を決めました。きっかけは進路指導の先生からの紹介でした。はじめは専門学校に進学しようと考えていましたが、先生からの後押しで不安も解消し、この大学に進路を決定しました。

進路を考えるにあたって初めに、「自分にできること」と「できるようにになりたいこと」を考えました。三年生まで部活と生徒会のことに時間をほとんど使っていたため、あまり絵を描くことには自信がありませんでした。当時は芸術大学、美術大学の印象として「絵が上手くないと入れない」だったり「課題が忙しくて大変」だったり、マイナスイメージが強かったです。絵が描けないから大学よりもレベルを下げた専門学校に行くことしか考えていませんでした。誰にも相談せず、自分で専門学校を選んでいたときに、はじめて先生から芸術大学を勧められました。考えてもいなかったことを指摘され、調べてみてから決めることにしました。「いけたらいいけど今から間に合うのか」、「落ちた時、次の進路はどうするのか」といった不安は調べていく中で大きくなりました。しかし、考えていくうちに今絶対に受かると思っている学校に行っても入学後自分の能力を成長させることはできないかもしれないという気持ちになってきました。これからの人生を大きく左右する大事な進路選択で安全に確実に進学するのは大事なことだけれど、挑戦してみてもうまくいったならもっといい将来につながるのではないかと考えました。もちろん落ちた時にも備え、3校ほど志望校を出しておきました。

入試方法は AO 型入試を選択し、実技での試験となりました。9月が本番の試験で私が本格的に芸術大学を目指して準備を始めたのは三年時の夏休み前でした。画塾に行くことも先生に作品を見てもらうこともなく、独学で挑戦しました。今考えると、かなりなめていますが時間をなるべく絵に費やし、インプット→アウトプットを徹底していました。過去の作品の提出では二年時の作品である製図の課題や実習での課題、部活で使用した作品を主に提出しました。青峰の特徴をうまく生かした個性を出そうと思い、面談では建築分野の知識、デザインの知識を使って作品の説明をしました。

一部屋20人で受験者は200人を超えており倍率は二倍ほどでした。二泊三日の受験だったため、下準備から大変でした。本番では得意なこと不得意なことを明確にできていたので、できる限りの実力発揮はできたと思いました。また苦手なことは苦手と割り切ってきたため、緊張もあまりなく作品を作れたと思います。

準備期間の短さは不安要素になります。日常的での普段の頑張りは、受験勉強を頑張るより思わぬところで自信として生きてきます。自己理解を深めて頑張れることを頑張ってください。

## 松本大学 松商短期大学部 経営情報学科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私はインテリア科のデザインコースで学ぶ内容を活かした職業に就きたいと考えていましたが、具体的な学校名や職業などは決まっていませんでした。しかし、デザインコースの情報の授業や選択科目での情報基礎の授業等でパソコンを日常的に使うことが増え、自分で一からCMやポスター、プレゼンの資料等を制作していくうちに、情報系の職業を調べるようになりました。そこで、自分が高校で取得した情報系の資格に沿った仕事に就くため、知識の向上を目指しこのまま継続して情報の分野を学ぼうと決めました。

私がこの学校を選んだ理由は、多種多様な資格取得が出来るため、将来の職業選択幅がより広くなると考えたからです。既に取得している資格の知識の向上はもちろん、この学科では学ばないジャンルの資格取得にもチャレンジするチャンスもあり、更に職業選択の幅が広がり、自分の希望により近い仕事を見つけやすくなるという点にも魅力を感じました。進学後は様々な職業に繋がる資格取得を目指し、将来は自分の知識を活かして地域に貢献出来る情報関係の仕事に就きたいと考えています。

試験の準備に関しては、主に面接の練習を行いました。当日は面接官二人、受験生一人の個人面接でした。調査書からの質問がほとんどでした。自分が高校生活で何を頑張ったのか、一番印象に残っていることは何かなど進路の手引きにある質問等は考えておいたほうが良いと思います。自分が三年間で取得した資格にも触れられることが多かったので一つ一つの資格を把握しておくことも大切になります。面談のような雰囲気なので、落ち着いて面接官の方の目を見てはっきりと伝えると好印象になると思います。

## 大垣女子短期大学 デザイン美術学科 コミックイラストレーションコース

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は、将来イラストレーターになりたいため、この学校に進学することを決めました。この学校は、私が学びたい学科であるデザイン美術学科でも4つのコースがあり、それに加えてキャリア教育も学べる魅力もあり、こちらの学校を希望しました。また、オープンキャンパスに参加した際の学科説明では、コミックイラストレーションコースで「個人の絵柄を尊重する」、「我々はこうしろとは言わない。一つの例として生徒に提示をする」とおっしゃっており、強く好感を持ちました。

私は、評定平均が高かったため、学校推薦型選抜(公募推薦第一期)で受験をしました。総合型選抜(AO入試)では募集人員が定員の30%に対し、学校推薦型選抜(指定校推薦・公募型推薦)では定員の60%を入学させるシステムを採用していました。

大垣女子短期大学、デザイン美術学科の入試は「実技(漫画制作)・実技(鉛筆デッサン)」90分。または、「作品審査(指定課題+それに対する口頭試問)」の3つの中から自分が受けた試験を受けることができます。私は漫画をちらほらと趣味で描いていたので、漫画制作で受験をしました。

入試会場に入る前にも先生方が道を示してくださり、迷うこともなくたどり着くことができました。会場には私含めあまり人数はいませんでした。それに加えて、どうやら漫画制作は私だけだったようで、ほかの皆さんはデッサンで受験をされていました。会場が同じだったためデッサンの問題も聞きましたが、紙とリンゴのデッサンとのことでした。私が受けた漫画制作は、入試会場でテーマが知らされ、それをイメージした漫画の一コマを制作するというものです。私は納得のいくものが描けず、2回ほど白紙に戻すというタイムロスをしました。残りの時間でなんとか完成させましたが、やらかしたという思いでいっぱいでした。もっと練習したほうがよかったなど後で後悔しました。

何に対してもしっかりと練習をしたほうがいいです。そして、自信をもって受験することをお勧めします。実技が不安だった場合でも内申点でカバーされたと思っているので、評定は高くしておいたほうがいいと思います。普段の授業態度やテストに励むといいかもしれません。頑張ってください！

## 飯田短期大学 看護学科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は、高校入学前から医療従事者になりたいと思いたくさん調べてきました。その結果看護師が自分にふさわしいと思える看護師資格が取れる学校に進学したいと考えていました。いろんな学校を調べていくうちに助産師資格を取れる学校があることを知り、助産師の資格を取りたいと考えた結果短期間でたくさんのことが学べる短期大学にしました。私が看護師の資格を取りたいと思ったきっかけは、幼いころに母が、病気で入院した経験からです。母が、歩行をするときに看護師さんが歩行介助をしたり辛そうだった母にやさしく寄り添って声をかけたりしたときに母に笑顔が見られたことで、私もいつかその看護師さんのように患者さんに寄り添える看護師になりたいと考えたからです。

飯田短期大学を選んだ理由は、オープンキャンパスに参加した際に学校の先生方の半数が看護師として実際に働いていたことがあり、病院実習をするときや就職する際にアドバイスを聞くことができ看護師になったときに生かせると感じたからです。また、専攻科では助産師と保健師の資格取得ができることにとても魅力を感じました。

受験勉強は、面接と小論文の練習をたくさんしました。学校にある進路室に行き過去の先輩方のデータを見たり、面接と小論文対策は、試験の2か月前から先生方をお願いをしたりしていました。早めの取り組みをしたことで心と時間にゆとりができます。小論文は、過去の試験のお題について取組み、何回も先生に添削をしてもらいました。面接練習は、最初は担任の先生をお願いをして次はインテリア科の先生をお願いをしました。また、中学の時に面接をした経験から面接よりも小論文に力を入れました。小論文は、過去のテーマやインターネットで調べて本番どんなテーマでも対応できるように対策を行いました。

私は、将来誰にでも患者さんに寄り添い一人ひとり必要な看護ができる看護師を目指します。そのためには、基礎的な看護知識と技術を習得していきたいと思っています。

## 松本大学 松商短期大学 経営情報学科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は、高校入学当初は進学と就職どちらにしようか悩んでいましたが、何となくインテリアやデザインに関わることをしたいというだけで、具体的な進路は決まっていませんでした。しかし、インテリア科の情報の授業で excel の表計算や word を学ぶうちに情報に興味があき、情報についてもっと学びたいと考えるようになりました。そこで、高校で取得した資格を活かせる仕事に就くために情報を専門的に学ぶことを決めました。

私がこの学校を選んだ理由はいくつかあります。一つ目は、二年という短い時間の中で自分の進みたい道に合わせて資格を取得できることです。二つ目は、地元企業に根差しており就職に強いところです。三つめは、課外活動で誰に何が人気か考え、それをお店などで販売をして実践ができることです。このようなことから、この学校を志望しました。

試験準備に関しては、主に面接練習を行いました。当日は面接官二人、受験生一人の個人面接でした。調査書からの質問がほとんどで、自分が高校生活で頑張ったこと、取った資格で難しかったのは何か、などが聞かれました。順番が後の方だったこともあり面接のような形式の面談みたいな感じでした。面接中に質問の内容が飛んでしまいましたが、聞き返すことは大丈夫なので、焦らずにもう一度聞いて答えることもありだと思えます。

## 松本短期大学幼児保育学科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は将来、子供の安全を守り、子供たちを健やかに育てられる保育士になりたいと思っています。保育士は子どもの小さな成長を日々実感することができる素敵な仕事だと思います。また、私は3歳の頃から習っているピアノを、将来に生かしたいとも考えています。

こちらの学校でのオープンキャンパスには三回参加し様々な体験をしました。一回目は軍手に布を切り顔を書いて歌を歌ったり、二回目は造形の授業ではボトルにビーズやぷよぷよボールを入れて置物を作ったり、三回目は実際に赤ちゃんの人形を使ってお風呂に入れる体験をしました。楽しかったり、もっと学びたいという意欲が湧きました。

私は、10月7日に総合型I期で受験しました。内容は面接と3分間の自己PRです。面接では、どんな質問が来ても困らないように、進路の手引きを参考に対策をして参加したため、わりとスラスラと答えることができたと思います。また笑顔で大きな声で応答することを意識しました。3分間の自己PRでは、自分の得意なサッカーの実演を行いました。スーツでやり難かったり、緊張もありましたが、サッカーが好きだと言うことがアピールできたと思います。

11月1日に結果通知が来ました。無事合格できてよかったです。将来素敵な保育士になるために、4月から学生として学習活動に力を入れて頑張ります👍

## 東海工業専門学校金山校 建築工学科

インテリア科 男子 (令和5年度)

私が進路について本格的に考え始めたのは2年生の冬頃です。ものづくりや住宅建築に興味があったので、このインテリア科に入学しましたが、明確な進路は考えておらず、ただ漠然とした考えしか持っていませんでした。2年生になり進路学習が進む中で、将来の進路について考えがまとまらないまま悩みのある生活をおくっていました。しかし、授業でインテリア設備の学習を進める中で、建築関係の職業に興味を湧くようになりました。普段生活している中で、見えない建物の構造や部材について学んでいくうちに、人の住まいとなる建築物を作りたいと考えるようになり、専門的な知識を身に着ける必要性を感じ、専門学校への進学を決意しました。

建築系の専門学校は多くありますが、担任の先生に相談したところ東海工業専門学校金山校をすすめられました。インターネットで調査した段階から候補の一つだったので、まずはオープンキャンパスに参加することにしました。分かったことは、在学中に二級建築士、一級建築士、二級施工管理技士など多くの資格にチャレンジできること、併せて就職や大学進学するよりも早く建築士試験を受験できる強みもあることでした。学習環境では、木造二階建て住宅模型や鉄筋構造模型、CAD室などの充実した設備、施設が完備されていて、専門的な知識を身に着けたい私にはピッタリだと感じました。これらの理由から、こちらの専門学校への進学を決意しました。

この学校の受験方法は、指定校推薦となっているようで書類審査のみの審査でした。出願はインターネットを取り入れており、個人情報など必要な事項を入力し送信し、併せて調査書と推薦書を郵送する形式でした。面接や筆記試験がなかったため、比較的簡単な受験ではありましたが少しでも評定を高く判断してもらうために学校での生活態度には特に注意しました。合否はメールで届き、無事に合格通知を受け取ることができました。

後輩へのアドバイスとして、まず、家族や先生方としっかりと進路について話し合いをすることです。次に、自分の学校生活を見つめ返してしてみることを勧めます。私の場合、スマホなどの使い過ぎに注意し、授業に集中する等、やるべきことをきっちりやり遂げてゆくことが大切かと思います。

将来について不安に思うこともあると思いますが、自分自身をよく見つめて、何に興味があるのか、どんな職業に就きたいのかを深く考えてみる大切だと思います。

## 東海工業専門学校金山校 建築工学科

インテリア科 男子 (令和5年度)

私は小学生の頃、通学路の途中で見た建物がだんだんと出来上がっていく様子から、建築物の施工に興味を持つようになりました。その中でも住宅に関心があり、家族の部屋や自分の部屋等、広さや使い方をよく創造するのが好きでした。そんなこともあり、木曽青峰高校のインテリア科に入学をしました。

1年生の頃は、進路については考える余裕もなく部活動に無我夢中でした。学年が上がるにつれて、自分の将来についてよく考える時間が増えるようになりました。やはり、中学までの自分の関心や、将来手に職を付ければ何とかなるんじゃないかという思いもあり、建築系の専門学校への進学する方向で家族とも話し合うようになりました。しかし、家族の考えもとても厳しく、また、普段の学校や家での生活態度、成績などであまりいい結果を出せなかったこともあり、両親の許可はなかなか得られませんでした。やはり自分を支えてくれる両親に認めてもらえるよう、生活や学習への態度を改めるよう、定期テストや高校生活での改善に取り組みました。自己改善に意識した生活を送った結果、何とか家族から許可をもらい進学の道を選ぶことができました。

建築系の専門学校はたくさんある中で、東海工業専門学校金山校に進学したいと思った一番の理由は、私の夢とも関係している二級建築士の資格や一級建築士の資格が在学中に取れるということです。高校卒業の場合、二級建築士は実務経験が3年～7年必要になってきますが、こちらは在学中に二級建築士、さらに勉強を死に物狂いでやれば一級建築士も取得できることは、この学校の一番の魅力だと思います。

私は2年生が終わる頃にオープンキャンパスに参加しました。名古屋市内で金山駅から徒歩五分の場所にあり、東海工業専門学校金山校の校内の雰囲気がとてもよく、生徒と教師の距離が近くていつでも気軽に質問できるところや、木造二階建住宅模型の断面や鉄筋コンクリート構造の模型等、実物を見ながら勉強できる環境に惹かれてこの学校への進学を決めました。

私の東海工業専門学校金山校への受験方法は、指定校推薦で試験内容は書類審査だけでした。周りの友達も面接や小論文がある中で、比較的簡単な受験方法ではありましたが、その書類審査に受かるために私は、できるだけ内申点を高くしようと生活してきました。その結果、無事、東海工業専門学校金山校に合格することができ、進路が決まりました。

進学にはかなり多くのお金が必要になるので家族に負担をかけてしまっていますが、自分の本気度を理解してもらうことが一番大事だと思います。家族と話し合う時間を多くとることをお勧めします。

## 上田情報ビジネス専門学校 総合ビジネス科

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は木曽青峰高校へ入学して間もないころは進路先のことを全く考えていませんでした。しかし、インテリア科で様々なことを学ぶうちに、自分がこの先どんなことを学びたいか考えるようになりました。最初に私が考えたのはデザインやイラスト系の学校でした。私は昔から絵を描いたり漫画を読んだりすることが好きだったからです。授業でも絵が好きだからという理由でデザインコースを選んでいました。しかし、進路ガイダンスの時に上田情報ビジネス専門学校の先生が来校し、公務員についての講話をしてくださいました。その話がとても面白く公務員の仕事に興味がわきました。そして同時に、上田情報ビジネス専門学校に行きたいと思うようになりました。

上田情報ビジネス専門学校は就職のための学科だけでなく情報システムや建築インテリア、医療秘書科などもあります。その中でも、公務員だけでなくいろいろな職業で活躍することができるようになりたいと思い、総合ビジネス科を選びました。そして、総合ビジネス科では就職するときに有利になるような資格をたくさん取ることができるので自分には合うと思いました。

上田情報ビジネス専門学校は書類審査のみで合否を決めるので志望理由書がものすごく重要だと考え、何度も書き直し文字数や内容を調整しました。私は文章を書くということが苦手で書類審査だけということを知ったときすごく負担に感じました。ですが、友達や先生、家族にもアドバイスをもらって何回も書きなおした志望理由書はすごく出来のいいものになり、自信をもって提出することができました。

## ESP エンタテイメント東京 ギタークラフト科 ギター製作コース 2年制

インテリア科 男子 (令和5年度)

私は音楽が好きで、高校生活3年間軽音楽部に所属していました。そのため、音楽に携わる仕事がしたいと思い、楽器製作ができる学校に進学したいと考えました。

私がこの進学先を選んだ理由はいくつかあります。一つは、ESP というメーカーのブランド力です。このメーカーは、ギターやベースのモデリングで有名です。某人気音楽ゲームのキャラクターが使用している楽器は、ESP さんが作製しています。二つ目は、多くの有名人がこのメーカーのギターを使用しているということです。WANIMA の KO-SHIN さんと KENTA さんも使用しています。三つ目は、デザインが良いという点です。このメーカーのブランド力ということにも書きましたが、モデリングをしていることで有名です。ゲームのキャラクターに合わせたデザインのギターはもちろん、アーティストとのコラボギターなども製作しています。

試験の準備に関しては、AO 入試の受験資格としてオープンキャンパスへの参加 and 体験授業の参加となっていました。体験授業に参加するため、オープンキャンパスに行ってきた

ました。体験授業では、ギターのリペアという道具についてと使い方についての授業をしました。そして、その学校についての情報について調べました。AO入試の受験内容としては、書類選考のみだったため、書類を準備し学校へ送付しました。その後、学校側から合格通知が届き、私の受験は終了しました。

ESPの専門学校は東京と大阪にあり、現在福岡に開校認可申請中とのこと。ESP エンタテイメント東京も大阪もESP 学園というグループが主体になっており、文部科学省の「専門士の称号を付与される要件」を満たしているため、どちらを卒業しても、専門士を得ることができます。

## 名古屋デザイン&テクノロジー専門学校

### 総合マンガ科 コミックイラスト&マンガ専攻

インテリア科 女子 (令和5年度卒)

私は名古屋デザイン&テクノロジー専門学校のコミックイラスト&マンガ専攻に進学を決めました。きっかけは名古屋の専門学校をインターネットで探しているときに見つけたことでした。この学校を見つけた時期は、進路のことに関して決めなければいけないギリギリの時でした。

3年生になり、周りも受験や就職のことで忙しいときに私はまだ名古屋の専門学校に行こうか、大阪の芸術大学に行こうか、名古屋だったらどの学校がいいかととても悩んでいました。大学は確かに自分を成長させるのに一番よく、学歴でも専門学校よりは印象がいいです。しかし、私が大学に合うかといったら直感ですが合わないなと感じました。

そこから名古屋の専門学校を中心に調べ、4校ほどオープンキャンパスに参加しました。そこで一番印象に残り、ここがいいなと思ったのが名古屋デザイン&テクノロジー専門学校でした。オープンキャンパスの体験授業に参加したのは、5月中旬に違う学校のオープンキャンパスに参加した次の日でした。ここでは、実際に授業で使用するものを使わせていただき、2時間ほど授業体験をしました。また、体験終了後、選抜方法や総合型選抜での面接で聞かれる質問等を、講師の先生や学生の方々から聞くことができました。この体験で学校の雰囲気や講師の先生と生徒との距離感を掴むことができ、この学校に進学したいと心から思いました。

入試方法は総合型選抜のAO入試という方式で受験しました。総合型選抜は6月上旬から始まる一番早い選抜です。内容は面接と書類審査でした。受験まで残り3週間ほどしかなかったため、急いでエントリーシートを書き始め、面接練習を行いました。面接で聞かれた内容は「なぜこの学校を希望したのか、将来の夢は何か、趣味は何か、自分が頑張ってきたことは何か、自分が通っている高校についての説明、自分の長所と短所は何か、自分が希望したコース以外で気になるコースは何か」等です。面接官と私の一対一で行いました。とても緊張すると思いましたが面接官の方がとてもフレンドリーに話してくださったので、だ

んだんと緊張がほぐれてきました。

面接が終わり仮合格を受けたら次は書類審査に入ります。面接官の方にも言われましたが、特に何も問題がなかったので仮合格の時点で合格確定でした。早い段階で受験が終わったため、とても気持ち的には楽でした。

進路対策で大切なことは、早めの準備に尽きると思います。計画的に行動へ移しましょう。

## 日本工学院八王子専門学校

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は、インテリア科でものづくりの楽しさを学び、将来インテリア科で学んだことを生かせる小道具や装飾などのテレビスタッフになりたいと思い関連進学校を調査し、日本工学院八王子専門学校に決めました。

数多くある専門学校の中で日本工学院を選択した理由は、学科内での異なるコースの基礎を学んでから、自分に合ったコースを選択するという方法に惹かれたためです。

6月11日にオープンキャンパスに参加しました。オープンキャンパスでは今一番興味がある美術スタッフコースを選び、そこで実際に簡単な小道具づくりを体験しました。

入学試験は、総合型選抜(AO入学)で受験することにしました。この選抜はエントリー後に面談をし、出願認定通知が届いたら出願書類を送付し、合否通知を待つという流れでした。エントリーはホームページにある「総合型選抜(AO入学)オンラインエントリー」からエントリーしました。また、日本工学院は全国各地で面談ができ、場所によってエントリー期間が違うため一番近い松本市で面談ができるようエントリー期間には気を付けました。

9月2日に面談をしました。面談では学校と学科の志望動機や将来の進路、また、今その学科や職種について知っていることや、実際の活動について知っていること等を質問されました。エントリーした際に送ったエントリーシートをもとにした面談だったので、伝えたいことがはっきりしていたし、言葉に詰まることなく答えることができました。

面談が終わり、約2週間後に出願認定通知が届きました。出願に必要な書類をしっかりと確認し提出し、約1カ月後に合否が通知されました。無事に合格することができよかったです。面接練習の効果や書類作成を丁寧に行った結果だと感じています。

## 専門学校 トヨタ東京自動車大学校 自動車整備科

インテリア科 男子 (令和5年度)

### 《自動車系の進路を選んだきっかけ》

自分は当初、建築士を目指すためにこの木曾青峰高校に進学をしました。建築やそのインテリアについて学んでいくにつれ、建築があまり自分に合わないように感じるようになってしまいました。そのような理由で進路について悩み始めている中、高校2年の時に自動車やそのインテリアに興味を持ち始めたことで自動車整備士の仕事にも興味を持てるようになり、自動車整備の学校へ進学しようとするようになりました。

### 《この学校を選んだ理由》

自分がこの学校に進学をしようとした理由は2つあります。

まず、トヨタ自動車株式会社の直営校で、最新の教材や設備を利用できることです。実習では実際の職場で使われている工具があったり、逆輸入車やスポーツカーなど多種多様な実習車があったりと、教材も充実しています。

次に、就職率や資格の取得率が100%でとても高いことです。実習を中心とした授業や約60名の国家一級自動車整備士の資格を持った教員の方々から授業を受けられ、更には就職サポートもしっかりしており企業見学や説明会、スーツ登校など様々な取り組みが行われていて、確実な資格の取得や就職のために工夫されています。

### 《試験の準備》

自分は、総合型選抜(AO入試)で受験をしました。トヨタ東京自動車大学校の大まかな試験の流れは以下の通りで行われます。

#### 1. エントリーシートの提出

オープンキャンパスへの参加かネットで書類請求し、書類を書いて郵送して受付

#### 2. AO入試選考

エントリーシート内容+面接 (一級自動車整備科は筆記も追加であります)

#### 3. AO選考結果通知と出願

受験料納入、調査書の提出 (選考を通過出来たらほぼ合格です^^)

#### 4. 合格通知・入学手続き

正式な合格通知が来ます。入学手続き書類の提出、入学手続き金の納付をします。

早い段階で進路を決めることができることや、複雑な手続きもないのでこの方法でのやり方がお勧めです。

自分が行った試験対策は、エントリーシートの見直しと面接練習です。特に志望理由を明確にしておくことに力を入れました。本番は、二人の面接官とおよそ20分の面談を行いました。面接ではなく面談であることや面接官の方が受験生を緊張させないよう配慮してくださったのか、気さくに話しかけてくださったので、落ち着いて面談を受けることができました。

## アリアーレビューティー専門学校

インテリア科 女子 (令和5年度)

私は兄弟や、友人のヘアカット、ヘアアレンジを通して、自分の手で人を笑顔にすることに喜びを感じたことがきっかけになり、美容専門学校への進学を決意しました。また、理容師資格と美容師資格を両方取得でき、更に少人数制の学校ということにもシステムにも惹かれたため、アリアーレビューティー専門学校を選びました。

9月16日にオープンキャンパスに参加しました。学生の方にヘアアレンジをしてもらい、その後に学校についての説明を聴きました。その時点では、他の学校と迷っていたので、AO入試の流れにある面接を保留して帰りました。名古屋には、理・美容師資格を両方取得できる専門学校がアリアーレビューティー専門学校を含め2校しかないので、それが決め手になり、エントリーシートを提出しました。

12月16日にオープンキャンパスと面接試験があったので、それに間に合うように面接の練習をおこないました。面接練習ではエントリーシートの内容と食い違いが無いように細心の注意を払いました。当日を迎え、面接試験では準備していた通りエントリーシートに記述したことを元に質問されることが多く、伝えたいことをはっきりと説明できたと思います。

アリアーレビューティー専門学校からは合格をいただきました。

## 令和4～2年度（2022～2020年度） 合格体験記 インテリア科（進学）

金城学院大学 人間科学部 多元心理学科

インテリア科 女子（令和4年度卒）

私は、高校入学当初から進学しようと決めていましたが、なんとなく心理学を学んでみたいと思うだけで、具体的な進路は決まっていませんでした。しかし、児童の自殺数が年々増えているというニュースを見たり、私自身の酷く悩んだ過去を見つめ直したりするうちに、どうしたら悩みを抱える人たちの力になることができるだろう、身近な人が悩んでいたら私は何ができるだろう、と考えるようになりました。そこで、悩みを抱える方に寄り添い、力になることができる仕事に就くために心理学を専門的に学ぶことを決めました。

私がこの学校を選んだ理由は、一年次で幅広い分野の心理学を学んだ上で、二年次に自分が興味のある分野を選択することが出来るため、広い視野を持ち自分の適性に合った分野を見極められると考えたからです。また、精神保健福祉士の取得にも対応していることや中・高の教員免許の取得が可能であることも将来の幅が広がると考え、魅力に感じました。進学後は精神保健福祉士の資格取得を目指し、将来は児童福祉士などの仕事に就きたいと考えています。

試験の準備に関しては、事前に提出する志願理由書の作成と面接練習を行いました。当日は面接官2人、受験生3人の集団面接でした。志願理由書と調査書からの質問がほとんどだったため、自分の高校での活動についてしっかり答えられるようにしておくと思いいます。受験生が緊張しないようにと、面接官がその場の雰囲気を作ってくださいるので、落ち着いて、自分の伝えたいことをはっきりと伝えるようにしましょう。

日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 子ども専修

インテリア科 女子（令和4年度）

私は、子ども達と活動することが好きなこともあり、進路は保育の専門学校に進学しようと決めていました。二年生になり進路活動が本格的になっていく中で、私は子どもと接する上で、何か強みを持った保育士になりたいと思うようになり、保育士の資格と別の資格が両方取れる学校を探していました。そんな時、先生から大学を勧められました。正直、私は専門学校へ進学することしか考えていませんでしたが、現時点の評定と自分のやりたいことを見つめ直した結果、大学進学を決意しました。

進学先を選んだきっかけは、子どもに関わる事件がニュースで取り上げられたことでした。児童虐待やいじめによる問題が増加している現状を知り、私は子どもが一人で悩みを抱え込まず、適切な対応ができるスクールソーシャルワーカーになりたいと考えるようになりました。そして、福祉に強みを持っている学校であることや、福祉と子どもについて学ぶ専修があったこと、本校の卒業生も多いことから、日本福祉大学を受験しました。

受験勉強は小論文をひたすら練習していました。試験が近づくにつれて不安や焦りもありましたが、先生に何度も小論文指導をしていただいたおかげで、試験当日は落ち着いて臨

む事ができました。

後輩の皆さんへのアドバイスは、自分の将来の夢を幅広い分野から考えていくことが大切だと思います。まだ自分の将来の夢が決まらない人も、自分の特技や趣味、長所から将来を見つけていくのも進路に繋がっていくと思うので、自分は何が好きで、どんな人なのかを分析して考えてみて下さい。

## 京都芸術大学 プロダクトデザインコース

インテリア科 男子 (令和4年度卒)

私は京都芸術大学のプロダクトデザインコースに進学を決めました。きっかけは、母親がこの学校を紹介してくれたことでした。正直なところ、3年生になっても自分の進路に真剣に向き合えず、就職にするのか進学にするのかも決まっていませんでした。

夏休みに入る少し前、母親が京都芸術大学を含めたいくつかの京都の大学を紹介してくれました。僕はその時点で就職するつもりでしたが、京都芸術大学の事を知っていく中で、こちらへの進学を決意しました。京都芸術大学はコースがかなり多く、また比較的新しい大学ということもあり、時代に合った教育方針や、授業以外に数多くのプロジェクトや行事があるところが魅力でした。

私はすぐに受験概要やオープンキャンパスについて調べ、夏休み明けのオープンキャンパスでの体験授業に参加しました。ここでは、選抜の疑似体験ができたこと、試験対策も教えていただいたこと等、講義の雰囲気や試験感覚を掴むことができ、とてもありがたかったです。また、体験授業中や授業終了後、学科の先生とできるだけ沢山会話することができ、こちらの学校で学びたいという意欲も伝えられたと思います。この体験で味わえた大学の雰囲気、学生の感覚で、さらに進学の意欲が高まった気がします。

そこから本選抜までは2週間程しかなかったので、体験授業で先生方から教えていただいたことをヒントに、試験対策として、スケッチ練習とスチレンボード(選抜で使われるであろう素材)のカット練習をしました。

入試は体験授業型選抜という方式で受験しました。この選抜は9月の頭から始まる1番早い選抜です。特徴としては、受験したい学科の授業に1日参加します。出題された課題を受験生同士や大学の先生方と共に考えながら、一日で完成させ提出します。評価のポイントとして、授業中の態度、意欲、発言、課題の出来栄、面談でのアピールなどです。技術的な部分も見られていますが、それ以上に「この大学で学びたい」という強い意志を伝えることが大切です。またこの試験では、定員の半分を選考するようで、最大3コースまで受験することができるシステムとなっています。コースに迷った場合はそれぞれ受験してもいいと思います。まずは、オープンキャンパスでの体験授業に参加し、情報を集めると良いと思います。

本選抜ではウェットティッシュのケースをプロダクトデザインするという課題でした。午前中はグループディスカッションで、既存のウェットティッシュの使い難いところや課題を探し、それを解決出来るようなケースをデザインする。午後はデザインしたケースを実際にスチレンボードで模型として作成し、最後に全員の前で30秒間の発表をするという選抜でした。興味のある皆さんは是非チャレンジしてください。

金沢工業大学 建築学部 建築学科

インテリア科 男子 (令和3年度卒)

私は入学当初から進学を目標にインテリア科に入りました。具体的な進学先は決まっていりませんでした。専門科目でのインテリア設備の時間、先生が話して下さった建築構造の話から、地域の町並み保存に興味を持ちました。将来は一級建築士になり、古い街並みを上手に保存できる仕事ができたらいいなと思うようになりました。

まず進路説明でもありましたが、指定校推薦が狙えるように、日々の学習では予習復習など頑張って取り組みました。併せて、毎期中間期末考査には上位には入れるよう自分で目標をもって臨みました。学校調べについては、1年の頃から各地の大学のオープンキャンパスに足を運びました。複数の大学を見比べて候補を絞りました。2年時にはコロナの影響でオープンキャンパスには行けませんでした。インターネットで情報を集めました。

試験は11月で、文字数にして1000文字程の志望理由書を記述して提出するというものでした。細かい題に別れていて書き分けるのが大変でしたので、特に日頃から～について〇〇文字以内でまとめるといった。練習をしておけば、スムーズに仕上げられると感じました。

合格発表はその1ヶ月後にインターネットで合格発表がありました。インターネットで行う手続きが多かったので焦らないように一つ一つ丁寧にこなして行きましょう。なお、合格者へは一般教養を補強する等、入学時までに数本の課題が用意され、入学後の学習活動がしやすくなる取組があります。

日本工業大学 建築学部 建築学科

インテリア科 男子 (令和3年度卒)

私は、ものづくりが好きで本校のインテリア科に入学しました。専門科の授業で、先生方が生徒たちへ担当科目に関するアドバイスや、技術的な指導をテキパキとされている姿を見たり、先生方の学生時代の話などを聞いているうちに、自分もあんな風にできたらいいなと憧れるようになりました。高校卒業後は、工業系の大学に進学し、専門性を高め、将来は高校でインテリア科・建築科といった学科の教員として活躍したいと考えるようになりました。

そのような思いから、私は2年生の後半から工業系の大学の調査を始めました。その中でいくつか候補はありましたが、日本工業大学を受験してみようかなと思いました。理由は、オープンキャンパスで学内を見学しましたが、工業実習施設が充実していること、学生生活がしやすそうなこと、県内工業高校にOB、OGの方々が数多く活躍していること等です。

試験形態は、専門高校入試で受験しました。この入試は専門科に在籍する生徒が対象で、成績の縛りがありますので目標をもって学習に励みました。試験は11月で、夏休み頃から志望理由書の作成やその他に必要な書類の準備をしました。教科の課題制作や、委員会の仕事などが、重なる時期があるので、早目の準備が大切です。

試験内容は書類審査と面接でした。準備は出願の2ヶ月以上前から計画し、進路の手引きや受験報告書を参考に、面接専用のノートを作りました。予想質問項目をまとめたり、面接の反省点、問題点の対策なども記入しました。私は上がり症なので多くの先生方をお願いを

し面接練習を積み上げました。キーとなる項目を忘れないように心がけ、音声、表情等相手に上手く伝わることを意識し発言できるようにしました。

試験当日はとても緊張しましたが、面接練習の積み重ねで、落ち着いて発言することができました。予期せぬ質問も出されますが、そんな時は「とにかく落ち着いて」と自分に呼びかけ、合格を手にすることができました。最後に、「進路は3年生になってから考えよう」と思ってしまうと後々自分が苦労してしまいます。目標を持って早目の準備に取り掛かり、万全の態勢で受験に臨んでほしいです。後輩の皆さん、頑張ってください。

## 信州豊南短期大学 言語コミュニケーション学科

インテリア科 女子（令和4年度）

私は、将来図書館司書になりたいので、図書館司書と学校司書の資格の取れるこの短大を志望しました。この学校は優秀な図書館司書になるためのプログラムが多くあります。例えばブックトークやビブリオバトル、絵本や文庫本の読み聞かせ等、とても興味深く思いました。また、オープンキャンパスに参加した際には、学生が沢山話しかけてくれ、雰囲気も明るく安心して学校の見学をすることができました。

受験入試方式としては、どれで入るのか(奨学生、学校長推薦、自己推薦、指定校推薦 etc.)に関わらず「漢字検定準二級」程度の国語の試験があります。私はあまり漢字が得意ではないので漢字検定三級の勉強を受験の一年前から始めました。特に四字熟語や慣用句はよく出るものとそうでないものが割とハッキリしているので重点的にやりました。漢字の読み書きは教養基礎の時に配布された「SPI」対策の問題集をやりました。面接の練習は最も難儀をしました。頭では考えられていても口に出すとまとまりがなく言葉に詰まってしまい大変でした。特別な対策は思い浮かびませんでした。寸暇を有効に使った練習を考え、お風呂に入っているときや自分の部屋に一人にいるとき等、話し言葉が上手くまとまるよう練習を繰り返しました。

面接練習は試験の一か月前から始め、練習回数は六回でした。内訳は、担任の先生に二回、インテリア科の先生に一回、選択科目の国語表現の先生に一回、一年生の時の国語の授業を受け持っていた先生方に二回お付き合いしていただきました。自分のことを客観的に見るのが大切になってくるので、もっと前から始めればよかったです。

将来私は多くの人に本を読んでもらえるような仕事のできる図書館司書になりたいです。そのために、この学校で今後の図書館の課題やそれらを解決するための対策を研究したいと考えています。

## 飯田女子短期大学 看護学科

インテリア科 女子（令和4年度）

私は高校3年生の2学期という、かなりぎりぎりの時期に看護の道に進むことを決めました。看護を志す前は様々な進路選択で悩み、将来の夢が何なのかはっきりしませんでした。しかし、私は幼い頃から「将来は人と関わり、多くの人を助けられるような大人にな

りたい。」と考えていたこともあり、もう一度自分と向き合う時間をつくり進路選択への考えを深めることにしました。その結果、医療に関わる職業が一番自分に合っていると考えることができるようになり両親と話し合い医療系の大学に進学することに決めました。

医療という幅広い分野がある中で、看護を志したきっかけは、過去に怪我をした際の経験からです。当時は、私自身とても不安な気持ちが大きかったのですが、看護師の方が笑顔で、とても親身になって私の話を聞いてくれたため、安心して治療を受けることができました。そこで、次は私が看護師となり、地域医療や社会へ貢献できるような取り組みをしたいと考えるようになったからです。また、現代は新型コロナウイルスだけではなく、少子高齢化など様々な問題が起きている中で、医療現場で活躍している看護師の姿を見て、これからの医療を支える一員になりたいと考えたからです。

進学先を飯田女子短期大学とした理由は、学校見学に参加した際に、短大スタッフの中に看護職として経験のある先生方がいらっしゃるという情報もあり、看護学科で得た知識や技術に加え、先生方が実際に経験された看護医療現場での体験談を聞くことで、ものの見方や考え方を換え、自分の可能性を広げられると感じたからです。また、専攻科があるためさらに上の資格を取得できることが魅力だと感じました。

受験勉強は、面接と小論文の練習をひたすら行いました。過去問の資料請求、面接、小論文添削の依頼等は、一か月ほど前から行うと時間的にも精神的にも余裕ができるので、早めに行動すると良いと思います。

面接練習は、普段あまり関わりのない先生にお願いし、10回ほど面接練習を行いました。小論文は、過去問で出題されていたテーマで練習をし、当日どんなテーマであっても対応できるように対策を行いました。しっかりと準備を行えたので、当日は、落ち着いて試験に臨むことができました。

面接練習をする際に、考えた文章を暗記してしまう人が多いと思いますが、「絶対にこの言葉は伝えたい」というキーワードを覚え、文章をつなげるほうが当日、緊張で頭が真っ白になってしまったとしても対応できると思います。小論文に関してはたくさん書き、練習を積むのみです。

私は将来、どの診療科であっても患者さんに寄り添い、患者さんだけではなく、他の医療スタッフからも信頼されるような看護師を目指します。そのために、少しでも多くの知識や技術を吸収し勉強に励んでいきたいと思っています。

## 飯田女子短期大学 生活科学学科 食物栄養専攻

インテリア科 女子（令和4年度）

この短大を志望するきっかけとなったのは、自分自身のアレルギーです。私はクルミアレルギーで、口に含むと口内がかゆくなる症状が出ます。アレルギーが出て以来、食物を食べる時はいつも気を付けていました。しかし、去年新たにアレルギー症状が増え、頭痛、腹痛、吐き気を催す等、経験したことがない症状を体験し、とても怖い思いをしました。

この経験から、私は自分のようにアレルギーを持ち、みんなと同じものが食べられなくても、代わりの食品を使い、おいしく食べられる食事を考え、より多くの人達の食生活を支え

たいと思ったからです。

私は3月、9月のオープンキャンパスに参加しました。校内は落ち着いた雰囲気、様々な充実した設備と環境が整っていました。また、授業は調理実習が多く、基礎や応用知識は勿論、技術も身に着けられると思いました。そして、学生同士の距離が近く、協力し、意見を共有しあいながら共に学べる場所だと思いました。

受験準備として、まず資料請求をし、過去問等をよく確認しました。試験一か月前を切る前には、先生方に面接練習の依頼と小論文の添削の依頼をしました。面接練習は、普段あまり会わない先生と多く練習をしました。小論文は、過去問に「食について」とあったので、食に関するテーマで練習し、最後のまとめとして「食について」のテーマで練習を進めました。試験当日は、持ち物の確認をしっかりと、落ち着いて会場に行きました。

試験を終えてのアドバイスですが、試験準備はできるだけ早いうちに進めたいものです。特に面接や論文対策は、試験日より1ヶ月以上前から準備をして臨みましょう。また、それらの対策等をHRや進路の先生とよく相談しておいたほうが、気持ちにも余裕が生まれるはずです。また面接準備では、志望する学校のオープンキャンパスに参加し、カタログやHPでは分からない学校の特徴や雰囲気等、自分の目で見、感じたことを自分の言葉として述べられるようにしておきましょう。

将来私は、自分のように食物アレルギーを持っている人でも、安心しておいしく食べられる食事を考え、食生活を支えられる栄養士になり、高齢者福祉施設等で活躍したいと考えています。そして、それらの施設で生活する方々の食生活を支える中で、病気を予防し、健康を保つなどの活動をし、社会貢献できる栄養士を目指したいと思います。

## 上田女子短期大学 総合文化学科

インテリア科 女子 (令和3年度卒)

私は将来、学校司書になりたいと思っています。きっかけは私が小学生だった時の図書館の先生との出会いです。本の面白さや楽しさを教えてくださった先生に憧れを持っていました。上田女子短期大学に決めた理由は、学校司書を目指せる県内唯一の大学だったためです。また、オープンキャンパスに参加させていただいた際に、蔵書の充実した図書館などの環境設備や、学生、先生方の温かな雰囲気に魅力を感じました。

私は指定校推薦での受験を希望していたため、3年間の評定平均が4.3以上になるように勉強に励んできました。指定校推薦を希望している方は定期考査に向けてコツコツと勉強することが重要になると思います。また、3年間で欠席日数が15日以上あると推薦をいただけないので、自分の欠席日数を把握しておくが良いと思います。

上田女子短期大学の指定校推薦の試験は面接試験だったので、先生方に面接練習を頼みました。なるべく多くの先生と沢山練習すると自分の自信にも繋がるので、繰り返し練習すると良いと思います。また、本番で面接するのは自分の知らない人達ですから、あまり面識のない先生や、今まで関わりのなかった先生とも練習しておくことをおすすめします。私も初めは不安ばかりでしたが、何回も練習を繰り返したことで段々と自信を持ち、リラックスして本番に挑むことができました。高校生活でどんなことをしてしたか、入学して何を学びたいのかを明確にしておくことが大切です。試験間際で困らないように、普段から進路のことを念頭において生活すると良いと思います。頑張ってください！

## 松本短期大学 幼児保育学科

インテリア科 女子 (令和3年度卒)

私は中学生の時から保育士として働きたいと思っていました。私が保育士を目指そうと思ったきっかけは年の離れた弟の面倒を見ているうちに、子供の成長に興味を持ったからです。中学生の時には職場体験で保育園へ行き、高校の課題研究では保育園・幼稚園での交流を通して、子供たちとの関わり方を考えてきました。

私は県内の短大で学びたいと思っていたので、良いと思った短大のオープンキャンパスへ参加し、資料には載っていない内容の説明なども参考にして学校選びをしました。オープンキャンパスに参加することで学校の資料からは分からない、先生方の生徒への接し方や学校の雰囲気を知ることが出来ました。

私は指定校推薦で受験しました。受験をするにあたって小論文と面接の練習をしました。小論文は先生に問題を出してもらい、何回も書いて時間内に文の構成が出来るように練習しました。面接練習は、何人かの先生に練習をお願いしてやってもらいました。聞かれそうな質問に対する答えをノートに書き出し、それぞれの重要なキーワードを覚えました。マスクをしていることもあり、声が聞き取り難くなってしまいましたが、声のトーンを上げハキハキと話すことで相手も聞き取りやすく、明るいイメージを与えることが出来るとアドバイスしてもらいました。また、学校のアドミッションポリシーは暗記をし、それに関連した質問に対応出来るようにしました。

受験当日は、最初に面接試験がありました。アドバイスしてもらったように、声のトーンと面接官の目を見て話すことを特に意識して話しました。練習で聞かれたような内容の質問が多く、落ち着いて答えることが出来ました。小論文試験は、練習していた問題と出題形式が違い少し戸惑いましたが、焦ることなく落ち着いて問題文を読み、記述することが出来ました。

面接も小論文も何回も練習を重ねることで自分に自信を持って試験に望むことが出来ました。また、面接の時、話すことを全て暗記するのではなく、キーワードで覚えておくことでスラスラと話すことが出来ると思います。

## 信州豊南短期大学 言語コミュニケーション学科

インテリア科 女子 (令和3年度卒)

私は、高2の冬ぐらいまで、自分が将来何になりたくて、何をしたいのかが分からず、全く進路が決まりませんでした。先生から、自分が好きなことや趣味のことを考えたらいかがかとアドバイスを頂き、自分自身を考えてみました。私は本を読むことが好きだから、本に関わる仕事に就きたいと考えました。そこで、本について学べる学校を調査したところ、信州豊南短期大学に司書養成課程があることが分かりました。私はこれだと思い、志望しました。

受験は総合型選抜I期の基礎学力テストを受けました。1回目の試験では日本漢字検定準二級程度の問題やことわざ、四字熟語が出題されました。受験勉強は準二級程度の漢字練習を8月頃に始め、漢字のみの勉強しかできなかったため、ことわざや四字熟語はほぼ

勘でやることになり大変でした。2回目は面接試験でした。2対1で型にはまったような面接ではなく、面談のような感じで気楽に答えることができました。面接練習は図書館の先生に何回もやって頂き、他の先生にも少し手伝っていただきました。結局、多くの先生方との練習とまではいかずに本番だったので心配でした。今考えれば、多くの先生方に手伝っていただければよかったですと思います。

後輩に向けてのアドバイスはオープンキャンパスの参加を積極的にすることで学校の雰囲気も分かり良いと思います。私は書類を提出するのが期限のギリギリということが多かったので、早めの行動を心がけるようにすると良いと思います。

私は将来、図書館司書になって1人でも多くの人と本で関わっていきたいと考えています。図書館司書の仕事は人と関わっていく上でコミュニケーションを取ったりしないといけないので、人との交流を沢山しておくことも大切だと感じました。

## ちば愛犬動物フラワー学園

インテリア科 女子(令和4年度)

私は小さい頃から生き物が大好きで、中学生の頃から動物関係の仕事に就きたいと考えていました。それから、動物関係の仕事を紹介していたテレビ番組で、動物看護師の仕事を紹介していました。言葉を話せない動物を相手に、懸命に看護活動をする姿を見て、動物看護師になりたいと考えるようになりました。そのまま動物病院に就職し、経験を積むという方法もありましたが、私たちの年から「愛玩動物看護師」という国家資格になったことから、受験資格を得られる専門学校に進学することを決めました。いくつかのオープンキャンパスに参加し、学校の雰囲気や、医療機械の多さなどに魅力を感じ、ちば愛犬動物フラワー学園を受験しました。

試験の内容は、面談と30分の筆記テストでした。筆記試験の主な内容は、オープンキャンパスで説明があったので中学から高校までの基礎問題を1カ月前から繰り返し勉強しました。面談に向けては、将来どんな風に業界で活躍したいのかなど自分の意見を明確にしました。

試験本番は、筆記ではしっかりと勉強をしていたおかげでスムーズに問題を解くことができました。面談では最初は緊張しましたが、面接と違い堅い雰囲気ではなかったのですぐに緊張が解けました。ハキハキとしっかり質問に答えることができ、言葉のキャッチボールもしかりとできたと思います。

受験前は、不安でいっぱいだと思いますが、事前にしっかりと考えをまとめておくことで、自分に自信が持てるようになると思います。

## マリールイズ美容専門学校 美容科

インテリア科 男子（令和4年度卒）

私は入学の時からすでに希望する進路が決まっており、一度も変わることがありませんでした。そのため高校生活の中で美容師について自分で調べることを習慣にしていました。インテリア科では物作りの楽しさを学びながら、色彩の勉強やデザインのセンスについて特に真剣に取り組みました。そんな中で、将来どのような美容師になりたいかを具体的に考えていきました。

受験は一般推薦でいきたいと考えていたので、1年の時から評定平均を高く維持することを目標にしました。テストのほかに普段からの生活態度にも気を配って3年間を過ごしました。学校選びは2年の1学期から始め、2学期にはオープンキャンパスに積極的に参加しました。最初は美容学校について知るために、とりあえず2つ以上の学校を見学しに行き、自分の中で比較できるように意識しました。そのあとに行きたい地域を決めて、行きたい学校を絞っていきました。資料もたくさん集めました。

学校選びが終わったら、いよいよ受験になりました。内容は書類選考と面接でした。面接は個人面接で、自分1人と美容学校の先生2人で行われました。緊張する部分もありましたが、最後まで適切な受け答えを意識しました。合格発表は1週間後に通知が届きました。

私が受験で気を付けたことは、指定された書類を早めに準備することと、先生に頼らずなんでも自分で調べてみるということです。募集要項をよく読みこんでいて書類に不備がないか、試験の内容、書類の出し方まで丁寧に確認することが大事だと思います。

## 東京誠心調理師専門学校

インテリア科 男子・（令和4年度）

私は何かを作ることが好きです。1, 2年生の時は進路についてあまり考えていませんでした。将来何をしていきたいかと考えたとき、小さな頃から家で、家族や誰かに自分が作った料理を喜んでもらったり、ありがとうと言ってもらったことが、とても嬉しく思いました。このようなことから、料理をしている時間がとても楽しくなり、好きな料理を仕事にしていきたいと考え調理師専門学校に進学しようと決めました。

学校選択は3年生になってから、どこの学校に進学をしようか、どのような専門学校があるのか、インターネットなどを使い調べました。多くの学校がある中で、私は兄が神奈川県にある学校に進学した経緯もあり、神奈川県の近くにはどんな調理師専門学校があるのか調べ、東京誠心調理師専門学校にたどり着きました。詳しくインターネットで調べると学校の設備や学習内容が、将来の自分に役立つと思いました。

オープンキャンパスに行った時に、学校説明や体験授業などから、学校の雰囲気がとてもよいことが分かり、学校で調理師について勉強したいと強く思い進学を決めました。

入試方法は書類審査のみでした。普段からの学習活動や学校生活を頑張っていたので合格することができました。

将来何になりたいのか、普段から自分の好きなことや将来の希望をまとめておく等、自分を知っておくといいと思います。

## 日本工学院専門学校

インテリア科 男子 (令和4年度卒)

私は入学当初から進学を目標にインテリア科に入学しました。具体的な進学先は決まっていなかったですが、幼い時から好きだったゲーム関係の職に就くために、プログラミングを学ぼうと考えていました。様々なプログラミング系の学校を調べた結果、日本工学院専門学校に進学しようと決めました。

7月31日にオープンキャンパスに行きました。オープンキャンパスでは、生徒が作ったゲームをプレイしたり、簡単なゲームを作ったりしました。そして私は、総合型選抜(AO入試)で受験することにしました。総合型選抜はエントリーシートを提出し、面談を受け、出願認定通知が届いたら、入学申請書類等を提出し可否通知を待つと言う流れです。

9月3日に面談がありました。面談では、志望動機や将来の進路等を聞かれました。事前に提出したエントリーシートをもとにした面談だったので、緊張することなく答えることができよかったです。そして、出願認定通知が届いたので入学書類を10月下旬に提出しました。

合格発表は、入学申請書類を提出してから約1ヶ月後に郵便で通知されました。可否が心配でしたが、無事合格できたのでほっとしました。入試方式には何通りかあります。私の場合は総合型選抜でしたが、スポーツ推薦や一般入試などがあるので、受験時に自分に適した受験方法を選択するようにしてください。また、小論文や面接などは上達するまでに時間がかかります。早め早めの準備行動を意識して受験に臨んでください。

## 名古屋ビューティーアート専門学校 ヘアメイク科

インテリア科 女子 (令和4年度卒)

私は、ヘアメイクで沢山の人を綺麗で笑顔にできる人になりたいと思っています。きっかけは高校二年生の夏、職業体験で美容室に行った時です。実際にカラーやセットをさせていただき仕事を教えていただく中で、髪を切り終わった後のお客さんが笑顔になって帰っていく姿を見て、自分の手でヘアスタイルを綺麗にして笑顔になってもらえることは、仕事としてとてもやりがいがあると感じ、美容を学びたいと思いました。

多くある専門学校の中で名古屋ビューティーアートを選択した理由は、美容、ヘアメイク、トータルビューティー、エステティックの4つの科を併設していることがその一つです。美容を学ぶにしても職種によって学ぶことも異なります。自分が何をやりたいのか、どうなりたいのかその方向性をしっかり決め、科の特徴や仕事の内容を見たり調べたりしました。その中でメイクに興味を持ちヘアメイクを学びたいと思うようになりました。

2つ目の理由は、ビューティーアートでは、美容科ではなくても美容師免許が取得できることです。この話をすると周りの人から、「美容師を目指しているの?」とよく聞かれます。しかし私は、美容師になりたいと思うから美容師免許を取得するというよりは、資格得ることで仕事の幅が広がること、それを持っていることで自分の可能性が広がるという考えがあります。また私は、美容はずっと人の手でやっていく職業だと思っています。だからこそ、髪もメイクも全部できるという武器を持ちたいという、私の思いに合ってい

る学校だと感じたからです。

実際に学校見学に行ってみて、先輩や先生方はとても優しく、周りの同い年くらいの人たちは皆違ったスタイルでとても刺激を受けました。この学校に入学できたら沢山刺激されそうで、考えただけでとてもワクワクしました。

専門学校で受験の話聞いて私は、AOを受けました。普通のAOと特待生を選べます。普通のAO受験の方は課題提出、特待生は集団面接かオンライン面接の二択でした。特待生を落ちたとしても、もう一度チャレンジをするか、AO入学生になることができます。私はそれを聞いて特待生にチャレンジしてみようと思いました。結果はAO入学生になってしまいましたが、失敗を恐れず挑戦できてよかったと思いました。

今後は自分が胸を張って「頑張った」と言えるように、こちらの学校で勉強をはじめ、自分の将来を考えながら頑張りたいです。

## 東京動物専門学校 動物管理学科

インテリア科 女子（令和4年度卒）

私は、将来トラの飼育員になりたいと考えています。トラはとても危険な動物とされ、飼うことが難しいとされている動物の1種です。そんな、トラは現在絶滅の危機にひんしています。私はトラの絶滅を防ぐために飼育員となり、トラの手助けをしたいと思っています。このような理由で、トラを飼育している貴学を志望しました。

私は、新型コロナウイルス流行の関係で学校説明会のみ参加しました。富里キャンパスはYouTubeの案内動画を拝見しました。実習施設の規模が大きく、とてもたくさんの動物に囲まれる魅力を感じました。

試験は、書類審査、面接、スポーツテストの3つが行われます。書類審査は書類請求をしたり、学校説明会に参加したりすると詳しく教えてくれます。面接練習は、8人の先生に見ていただきました。私は、面接をするのが初めてだったのでとても不安でした。まずは、色々な先生に見てもらふこと、回数をたくさん積み重ねることを意識して練習をするようにしました。スポーツテストは何をやるのかが当日にならないとわからなかったもので、毎日、運動をして体力が落ちないように気をつけていました。

本番当日は、事前に対策をしっかりしたおかげで、リラックスして試験に臨めました。

面接は、事前にとたくさん練習を積み重ねたので、つまづくことがなく受け答えが出来ました。行ったことのある動物園、好きな動物についてのことを事前に考えておくことと動物についてのことを聞かれた時に役立つと思います。

スポーツテストは、段差の昇り降りと反射神経のテストをしました。空気は少し重く、緊張しましたが、監督の先生の言う通りに行うことができました。

東京動物専門学校は、特に面接を重視している学校です。『笑顔で話すこと』『大きな声ではっきりと話すこと』を日頃から意識すると本番でも生きてきます。試験は、「怖い」「難しい」「落ちやすい」と言われている学校ですが、いざ試験をやってみるととてもアットホームな雰囲気なので、落ち着いて取り組むことを意識してみてください。スポーツテストは毎年、内容が変わっていきます。したがって、インターネットの過去の先輩の口コミや卒業生に話

を聞くなどをして対策をするとよりよくなります。オープンキャンパスは、参加することで学校の雰囲気、講師や学生の様子、周りの環境を知ることが出来るので、インターネットやYouTube ではわからない部分が体験できるのでぜひ行くことをおすすめします。

## 大原簿記情報ビジネス医療専門学校松本校

### 情報 IT 系 システム開発コース

インテリア科 男子(令和4年度卒)

私は、入学当初は建築関係の道に進むことを目標としていました。しかし、授業で Excel や Scratch 等のパソコンを使った学習を深めるうちに、IT 関係の道が自分の進路に合っていると感じ、そちらの道に照準を定めることとしました。

専門学校を見つけた経緯としては、県内で、できるだけ近い場所で、自分のやりたいことが出来そうな学校が条件でした。PC を利用して、関連学校のHP等の検索作業を行い、探し出しました。

オープンキャンパスへは2月と3月に参加しました。実際にどのようなキャンパスなのか、雰囲気はどうか、設備や教室はどうか、体験授業はどうかと、見て、聞いて、感じて、学校を確かめました。また、AWS Academy の加盟校や Python や Java などの広く普及しているプログラミング言語の授業をしているということも知ったのでとても安心しました。

先輩方や担当の先生方も優しい方が多く、私自身はとても緊張していましたが、楽しくオープンキャンパスに参加し、体験することが出来ました。また、他にも様々な良いところを発見する場ともなり、この学び舎に魅力を感じましたので、こちらの学校に進学校の候補としました。

試験は6月から実施するAO入学を選びました。選考料の免除や早期に合格が決まる制度で、さらに、早期チャレンジプログラムという通信講座で入学前から勉強が出来るということが主なメリットです。

入学試験で特に意識したことは、面接では特に最低限のマナーと言葉遣いでした。1対1の面接で緊張しましたが、落ち着いて面接官の目を見て、よく話を聞き、なんとか乗り越えることができました。

後輩へのアドバイスは、まずオープンキャンパスは絶対に行ったほうがいいです。HPで調べればどのような学校かはだいたいわかりますが、より良い学校生活を送りたい人や、自分の進路に向けて頑張りたい人は、特に行ったほうがいいです。もちろん何回行ってもいいと思います。面接は、自分が思っているより厳しい面接官はなかなかいません。ですから、事前に高校の先生方とたくさん練習をしていれば乗り越えることが出来ると思います。

後輩の皆さん。頑張ってください。

## あいち医療福祉専門学校

インテリア科 女子（令和4年度）

私は自分の進路について、なんとなく介護福祉とかいいな、くらいにしか考えていませんでした。しかし、はっきりと志したいと思ったのは高校三年生の時に、祖母が入院したことがきっかけです。仕事をしながらでも介護福祉士の資格も取れますが、国家資格なのでしっかりと勉強し、たくさんのことを学んだ上で社会に出、介護を必要としている方々の力になりたいと思い、専門学校へ行くことに決めました。色んな専門学校と比べ、奨学金制度やオープンキャンパスでの学校の雰囲気、学習面などを見学して、このあいち福祉医療専門学校を受験しました。

私は受験方式として、指定校推薦枠で受験をしました。この枠での試験内容は面接だけでしたので、面接への対応だけに力を注ぐことができました。AO入試の場合は小論文の課題もあったようですが、進学先生からは、そんなに難しいものではないとアドバイスをいただきました。

私は、面接練習を二回ほどしかやっていませんでしたが、あまり緊張はありませんでした。今振り返ると、自分の考えや目標などをしっかりと伝えることができたと思います。後輩の皆さんには、上手く自分を表現できない人もいますが、訓練することで必ず自己表現することも上達しますので、面接や小論文の苦手な人も月単位の時間をとって練習をしておいたほうが良いと思います。また、質問に対する回答を固めすぎると言葉を言い間違えた時に焦ってしまうので、しっかり進学先のことを調べ、何に対しても答えられるようにしておくのが大切と考えます。試験の場面で緊張しない人は少ないと思います。しかし、繰り返し練習することで緊張を和らげることが必ずできると思いますので、落ち着いてゆっくり自分の目標や聞かれたことを答えてください。

## 東海工業専門学校金山校

インテリア科 男子（令和4年度卒）

私は、ものづくりが好きで木曽青峰高校に入学しました。入学した当初は、将来の夢などを考えておらず、建築関係の仕事に携われればいいなと考えるくらいでした。

学年が進み、高校2年生のインテリア装備という授業で、建築物の構造や部材、建築法規などを学んでいくうちに、建築分野に興味を持つようになりました。普段、当たり前のように生活している建築物の骨組みが、どのような構造になっていて、どのように部材同士が組み合っているのか、どんな工夫がされているのか等、面白さを感じるようになりました。

建築系の専門学校はたくさんありますが、東海工業専門学校金山校に進学した先輩が、「この学校たくさん資格が取れるから魅力的だよ」と情報を下さったので、3年生の秋に初めてオープンキャンパスに参加しました。在学中に一級建築士の資格を取得できる等、多くの魅力がありこの学校への進学を目指すことにしました。

私が一番苦労したのは、家族の同意を得ることでした。1, 2年の学校生活では、授業で良い成果を出せなかったこともあり、家での話し合いが上手く進みませんでした。3年生になり、何とか挽回しようと勉強を頑張りました。その結果、家庭の理解を得ることができました。とても感謝しています。

東海工業専門学校金山校への受験方法は、指定校推薦で試験内容は一般常識と面接だけでした。受験の2か月前にテキストを購入し、自宅で受験勉強を始めました。面接は、進路の手引きの質問項目を自分なりにまとめ、説明できるように練習しました。試験当日は、必要以上に緊張することなく普段の勉強の成果を発揮することができました。

私は、一般常識や面接を上手のこなすことも大切かと思いますが、やはり並行して、バックアップして頂く家族へ、自分の本気度を、学業の取組の成果や、日ごろの話し合いを通じてアピールできればよかったと反省しています。かなり学費もかかるので、話難い部分もありますが、自分の学習への取組と、進学に対する考えを、家族へしっかり説明することはとても大切だと思います。

## 京都建築大学校 建築科

インテリア科 男子 (令和3年度卒)

私は、ものづくりが好きで木曾青峰高校に入学しました。入学した当時は、将来の夢など考えておらず、ものづくりに携われればいいかなという思いだけでした。学年が進み、高校2年生の装備という授業で、建築物の構造や部材、建築法規などを学んでいくうちに、建築という分野に興味を持つようになりました。普段当たり前のように生活している家の骨組みが、どのような構造になっていて、どのように工夫されているのかなどというところに面白さを感じるようになりました。

建築系の学校はたくさんありますが、京都建築大学校に進学した2つ上の先輩が、「この学校たくさん資格が取れるからいいよ。」と勧めてくださったので、2年生が終わる時期に初めてオープンキャンパスに行きました。京都市からは離れていて、学校は山に囲まれています。静かで勉強しやすい立地条件であること、京都には歴史的な建築物や、京都ならではの街並み等から学べる人が多いこと、在学中に一級建築士の資格を取得できる等、多くの魅力がありこの学校への進学を目指すことにしました。

私の京都建築大学校への受験方法は、指定校推薦で試験内容は面接だけでした。受験の1か月前から面接練習を始め、主にインテリア科の先生に練習をして頂きました。最初は、志望動機や言いたいことがまとまっていませんでしたが、練習を重ねていくにつれ、言いたいことがまとまっていき、最終的には、自信をもって自身の考えを相手に伝えられるまで上達することができました。

試験当日は、必要以上に緊張することなく、自分の伝えたいことをしっかり伝えることができました。長い期間、練習に手を貸してくださった先生方のおかげだと強く感じます。私は面接だけでしたが、ほかにも小論文や筆記テストがある学校もあると思います。どれも上達するまでに時間がかかります。何事も早め早めの行動を意識することが大事だと思います。自分の進みたい道は自分で切り開く事が大切かと思っています。面接練習では厳しいアドバイスを頂き辛い時もあるかとは思いますが、自分に向き合い頑張って練習を積み上げ、是非成功を手にしてください。

## 松本理容美容専門学校

インテリア科 女子 (令和3年度卒)

私は中学生の頃から美容師という職業に憧れを持つようになりました。中学生の時に参加した美容院への職場体験を通し、自分の技術で沢山の方々を笑顔にし、またこの人にやってもらいたい、と思ってもらえるような美容師になりたいと考えていました。今でも、その思いは変わらず、自分の夢が明確になったと捉えるようになりました。そこで、その夢を叶えるために松本理容美容専門学校を受験しました。

試験に臨むにあたり、1番力を入れたのは面接練習です。何人もの先生に面接練習をお願いし、その度に沢山のアドバイスを頂き、何度も練習を重ねました。その結果、何とか面接の形にすることが出来ました。私の受験は10月だったので、本格的な練習は9月から始めました。松本理容美容専門学校の入試には小論文もありましたが、事前にお題が分かるのでそのお題で練習をし、本番で悩まないようにキーワードなどをしっかり覚えて臨みました。

試験本番は少し緊張しましたが、面接練習をしっかりしていたので、考えていなかった質問でも焦ることなく、しっかりと答えることが出来ました。面接官の方は2人いましたが、主に1人が質問者となる形式でした。志望理由はもちろん、自分は美容師という仕事のどこに惹かれるのかなど幅広く質問されましたが、面接時間は10分程度で短い印象でした。とにかくゆっくり、はっきりと大きな声で喋ることと、マスクをしたままの面接だったので目を大きく開くことや眉毛を動かすということを意識して面接をしました。そして無事合格しました。

私は将来、またこの人にやってもらいたいと思って貰えるような美容師を目指しています。日々の勉強に励み、将来の夢を叶えるために学校生活を送りたいと思っています。

## 東京動物専門学校

インテリア科 女子 (令和3年度卒)

私は、動物に囲まれて育ってきました。そんな中、動物の生と死を身をもって感じる体験をしました。こうした経験から動物の生涯に携わることのできる仕事がしたいと考えたことや、人だけではなく動物にも笑顔、感動・癒しを届けられる仕事がしたいと考えたので将来は、動物関係の仕事に就こうと決めていました。

東京動物専門学校では、動物の命を守るうえで技術だけではなく人間力を磨くことも教育の一つとしており感銘を受けました。なにより、学校で230種類1500頭以上もの動物を飼育しているというところに魅力を感じて東京動物専門学校を受験しました。

私が受けた推薦入学試験の試験内容は、提出書類の審査、スポーツテスト、面接を行いました。スポーツテストでは、階段昇降や反復横跳び、試験監督の指示通りに動くテストをしました。面接は、約6分間行いました。それぞれの対策としては、面接練習をたくさんの先生方をお願いして行い、日頃から運動をするようにして体力を少しずつつけるようにしました。本番では、緊張せず試験監督の話をよく聞き、面接では、笑顔で話すこと、大きな声ではっきりと話すことを意識して挑むことができました。

東京動物専門学校の面接は「怖い」「難しい」「落ちやすい」などの噂を耳にしていたので

不安でいっぱいでしたが、面接が始まるとアットホームな雰囲気落ち着いていれば大丈夫という印象を受けました。

オープンキャンパスですが、参加することにより、その学校の雰囲気、講師陣や学生の様子、周りの環境、他インターネットや、パンフレットではわからない部分を自分の目や肌で感じられるので1度は参加してみましよう。

## 東京電機大学・システムデザイン工学部・デザイン工学科

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私は高校2年生の時に進路を進学しよう決めました。しかし、将来のやりたいことが決まっておらず進学しよう決めしてからが大変でした。どんな大学に進学しようか、何系の学部しようかなど、将来やりたいことが決まっていな私にはどうやって調べて、どうやって決めればいいのか全くわかりませんでした。インテリア科にいるので、ものづくり系の学部しよう決め、いろんな大学を調べました。その中で、少しでも興味があったらより深く調べました。進学したい大学が決まったのは、高校三年生、七月の下旬でした。幸運にもその大学の学部から指定校推薦が来ており、指定校推薦で受験しました。

受験方法は、新型コロナウイルスの影響で例年とは違い、小論文の試験がなくなり、事前提出型課題になりました。テーマが出され、それについて自分で調べ、紙五枚ほどのレポートを作成しました。その二か月後に面接があり、リモートでの面接を行いました。レポートの作成は、色々な教科の先生に見てもらい、意見をもらいました。反省していることは、準備を早くからすればもう少しよいものができたと思う点です。

東京電機大学に進学し、将来やりたいことを見つけ、社会に貢献できる人に成長していきたいです。そのために、日々の学習を怠らず生活していきたいです。

## 長野保健医療大学・看護学部・看護学科

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私は高校1年生の3学期に看護の道へ進むことを決めました。きっかけは部活動の経験と病院の看護体験に参加したことです。私は野球部マネージャーとして活動していたことから、自然と将来は心身をサポートし誰かの助けになる仕事をしたいと思うようになりました。そんな中で病院の看護体験に参加した際、患者さんの目線に合わせて誠実に向き合う看護師の方と出会いました。そこで私もこの人のようになりたいというざっくりとした強い思いを抱くようになり、看護師を目指すようになりました。

目標が決まって1番初めに取り組んだことは、テストの点数を上げて成績上位をキープすることでした。私は4年生大学で学びたいということと、公募推薦で受験したいという希望があったので、毎日の勉強はもちろん、評定にこだわって取り組むようにしていました。3年間の評定や生徒会の経験など常に上位を意識して出来ることは何でも取り組むことで、確実に推薦に有利になると思います。

私が大学受験したときの試験内容は小論文、面接、書類選考でした。小論文対策は7月頃から取り組み始めました。看護の小論文は医療系単語をある程度理解していないと書くことは難しいので、まずは参考書を使って医療単語や保健分野の勉強から始めました。小論文の練習は添削も含めて時間がかかるので、余裕をもって早い段階から取り組むと良いと思いました。また、過去問から出題の系統を把握しておいてそれに沿った題材の小論文を多く練習すると本番でも取り組みやすいと思います。

面接対策は11月頃から始めました。私は面接練習を始める前に、希望する大学の理念やカリキュラム、質問の系統など隅から隅まで調べました。それをもとに予想される質問に沿って様々なパターンの答え方を考えてノートにまとめました。入念な下準備を行うことで、明確な意思と伝えたいことをきちんと整理して答えられるようにしました。また、他の大学について調べておくこの大学でなければならない理由が明確になるので、より伝わりやすいと思いました。面接練習はできるだけ多くの先生方に指導してもらいました。先生によって質問の仕方や内容の系統が全然違うので、臨機応変に伝える練習ができました。また、精神面においても鍛えられると思います。

本番では今までに味わったことのない緊張感がありました。小論文は医療単語が多く含まれた内容でした。文をよく読み出題の意図を理解したうえで書きたい内容や文の構成を立ててから書きました。何度も練習してきたことで割と落ち着いて取り組むことができました。面接では想像していなかった質問もありましたが、慌てることなく答えることができました。とにかくゆっくりと大きい声で喋るようにして相手に伝えることを意識しました。そして無事合格が決まりました。

私は将来患者さんの目線に合わせて意思を汲み取り、心から看護してもらいたいと思ってもらえる看護師を目指しています。日々の勉学に励み、将来の夢を叶えるための大学生活を送りたいと思います。

受験は大変なことが多く、辛いです。ですが周りの人の支えを大切にして努力を惜しまずに頑張っていけば道が開けると思います。

## 名古屋こども専門学校 保育科 保育士・幼稚園教諭コース

インテリア科 男子 (令和2年度卒)

私が保育士を目指し始めたきっかけは、中学生の時に職場体験で保育園にいったときに私が担当した組の担任の先生が「常に子供の立場に立ってものごとを考えたり、行動したりしている」といっていました。その様子を間近で見て私もこんな保育士になりたいと思ったからです。

高校に入ってから、インテリア科で絵について学んだり物作りについて学んだりして保育園で制作をするときに活用できるように三年間努力しました。

進路は、この先保育園と幼稚園が合わさる幼保一体化が増えていくので、両方の資格を取ることができ、二年間で卒業していち早く現場に出ることができる名古屋こども専門学校を選びました。

試験に向けては、いろんな先生と面接練習や話し合いをしてどんなことが聞かれそう

か、どんなふうに答えればベストなのかを詰めていきました。当日はコロナの影響で専門学校にいった面接を行うのではなく、自宅でリモート面接を行いました。とても緊張していたけれど、試験官の先生が優しい人だったので楽しく行うことができました。

その一か月後、特待生の試験があったのでさらに深いことを聞かれると想定して面接練習をしました。この試験は、専門学校へ行き三人一組で行いました。リモートよりも緊張してうまく言いたいことが言えてなかったですが、無事受かったので良かったです。

専門学校に進学してからは、自分がなりたい優しくて何でもできる保育士を目指して、高校生活で培った周りを見て行動する力や、男子だからできることをしっかりと行ってきたいです。